

# 寄せ場の消滅はふせげるか？そしてドヤ街は？

水野 阿修羅\*

Ashura MIZUNO

Can We Stop the Yoseba from Disappearing? And What about the *Doyagai*?

## 釜ヶ崎が岐路に

寄せ場としての釜ヶ崎が岐路に差し掛かっている。朝の求人状況や日雇失業保険手帳の数からも労働者が減っていることは明らかだ。朝の求人数の変化でも明らか、1989年187万4千人が29万8千人に、手帖の数は2万4千が600に、そして今釜ヶ崎に労働者がどれぐらいいるか正確な数はだれもわからない。西成労働福祉センター報告書もかつては警察統計を引用していたがそれもだいぶ前からなくなった。

朝現役労働者があつまっているところは、わたしの見る限りセンター北側の手配師たちがいるエリアと「瑞光」前、「トリガープランニング」前、「大建」前、「大剛」前ぐらいなものだ。飛田の「渥美組」前はあまり人がいない。渥美、大建、トリガーは飯場を持っている。

わたしの最近に見た山谷では、職安・センター前に労働者が仕事紹介前に多少集まっているが、紹介終了後は散ってしまう。手配師が車を止め求人する様子はみられない。「運動体」が主張してきた「手配師追放」？ 寿では、日雇失業保険認定の労働者は見かけるが、手配師は2、3人見かけたぐらいだ。現役労働者はあまり住んでないようだ。ドヤの宿泊者の大半は生活保護者だという。これは山谷も一緒だろう。

寄せ場からの仕事先が製造業からなくなり、山谷や釜ヶ崎では港湾もほぼなくなった。そして建設業が今、合理化、機械化、外国人化が進んでいる。派遣は求人情報誌やデジタル手配が主流だ。朝集合するのは会社までのバス乗り合い所で、特定の地域ではない。ウーバーイーツや出前館などの宅配は、待機場所がない。配達元の多いエリアの路上で待機する。寄せ場化しない。ネット注文の配送は郊外の配送センターから車で行われるため大型駐車場があるため郊外化する。ここは、寄せ場と言えないだろう。

あえてあるとするなら外国人の集住地域で車の乗りあい集合地。こういうエリアに日本人がくること

はあるだろうか？アメリカでは大型ホームセンター入り口に、人手を求める買い物人を待ち受けて移民労働者がグループで待ち受けており、小さな寄せ場化が生まれてるという。

いずれにしてもかつてのような「寄せ場」はできない。では「ドヤ街」は？

かつては日本の主要な駅には必ずドヤが近くにあった。しかしその大半が戦後のドサクサでできた不法占拠エリアだったり、再開発によりなくなった。かろうじて残ったのが山谷、寿、釜ヶ崎。寿は横浜市の方針で単身男性高齢者の集合エリア化した。外国人やバックパッカー向けは成功しなかった。山谷もバックパッカー向けは都内に競争相手が多くて成功してない。生活保護者向けで何とかもつた旅館は廃業するしかない。マンション化が始まっている。東京は少し前、都心にワンルームマンション規制を考えられたことがある。犯罪防止が目的だったが学生が学生が住み家が無くするとして反対された。ドヤも同じで、「民泊」として復活してるが集中すると東京都は散らすだろう。新宿から大久保にかけてネットカフェが多いがこれをドヤ街とはいわない。釜ヶ崎は？

「あいりん総合センター廃止で釜ヶ崎が無くなる」と騒いでいる人たちがいるが、わたしはそうは思わない。手配師がいなくなり、飯場がなくなってもドヤがある限り釜ヶ崎はなくなる。シェルターもあるし(山谷にはシェルターもない。東京都はシェルターを5年ごとに移動し定住させないようにしている)、炊き出しも多い。悪質でなければ手配師も飯場もあつていいと思う。

流動的な人の流れが釜ヶ崎の特徴で、出ていける人は出て行っても出ていけない人が残り、訳ありの人ばかりだから面白いので、普通の街になったら面白くない。

星野リゾートなんか問題じゃない、高級化にどう対抗するか？ それを考えずに「反対！反対！」だけ

\* 釜ヶ崎在住 地域史研究者

では「玉砕」して終わり。「まちづくり」を考えずに「ドヤ主は敵だ！」と叫んでいるのは自滅への道。ドヤ主やアパート持ちと手を組んで訳ありの人を受け入れ、よその人たちから恐れられようと、怖がられようとそれを受け入れることが釜ヶ崎を残す道。支援はそのために必要で、「わけあり人」を社会に送り返して釜ヶ崎を無くそうとする「支援者」はいらない。よそでやってほしい。

## 2022年暮れの山谷

12月11日、山谷で行われるアメリカのホームレス支援・サービスハブグループとの交流の為東京に行った。11日は久しぶりなので横浜・寿町の簡易宿泊街に行く。日曜日で早朝なので手配師もいない。喫茶店も開いてない。わたしの住む釜ヶ崎は日曜日でも朝4時から開いている。一軒のカラオケスナックがまだやっていた。寿町総合福祉センターのオープンを待っていると、広場に人が集まりだした。聞くと「炊き出し」があるそうだ。9時半ごろフィリピン人が集まってきた。教会のグループで200人ぐらいの人に弁当と飲み物、お菓子の入った袋を説教もせず配りだした。

続いて川崎の簡易宿泊街・日進町に行く。ここは大きなドヤはない。食堂も閉鎖していて、コインランドリーだけが3件開いていた。

夜、山谷の簡易旅館に泊まろうとしてびっくり！去年泊まった2200円の所が満室。近くの2200円のところが「一泊は駄目です、4泊か5泊でないと泊めません」と言われる。空室ありの札が出ているのに2200円の所はどこも駄目だった。「3000円以上なら空いてる」というので行ってみるがどこも満室。やっと一室開いていたがなんと8000円。3000円から4000円の所は日本人のビジネスマンが利用していた。山谷に現役労働者がいなくなって生活保護受給者ばかりと聞いてはいたが。しかたなく三ノ輪の「あうん」の会議室に宿泊。

12日、山谷近くの「光照院」でアメリカのグループとひとさじの会、山友会との交流会に参加。昼からは「あうん」の食堂でアメリカグループと中村さんとの交流会。夜、歌舞伎町の「駆け込み寺」の玄さんに会いに行く。歌舞伎町でカプセルホテルに泊まろうとするが、いつも行っていたカプセルホテルがネットカフェになってる。新宿区役所前カプセルホテルに泊まるがなんと6000円。

13日、アメリカのグループと「つくり東京ファ

インド」事務所へ、東京の家賃が高くてシェルター用のアパートが無くて苦勞しているとの話。古いアパートを自分らで内装改造して使ってるという。滞在資格のない外国人の救援をしている「アミーゴ」の人もいて話を聞く。昼からは立教大学でアメリカのグループと日本のグループのズーム会議に同席。夕方、柏井さんに聞いていたりサイクルショップと「しぜんカフェわくわく」に行く。わたしは労働者協同組合に興味があったので、「あうん」での中村さんの話を含めておもしろかった。